



『ナーシングホームもも』の“もも”はどこからきたの？

弊社の事業所名は、『ナーシングホームもも』に『市町名』をつけ名称とします。皆様には「桃」「百々」「もも」「モモ」と色々な思いから可愛がっていただいておりますこと深く感謝を申し上げます。

“モモ”との出会いは、平成2年、ちょうど30年前になります。このタイミングで“モモ”と名付けた理由を振り返ることができ、ありがたい時間をいただいたと思っていますところで。私は看護師になって10年程たった頃に、改めて自分の『看護観』を深く見つめなおす機会をいただきました。そのときに取り上げられた教材が、ドイツの児童文学者ミヒャエル・エンデ(1929~1995)による『モモ』だったので。

『モモ』は、風変わりな少女モモが人間の時間を盗んで生きる“時間どろぼう”と闘うファンタジー小説です。時間とは、生きるということそのものなので、人の心は心に住みかかっています。人間が時間を節約すればするほど、生活はよせよそっていくのです。“時間どろぼう”に、唯一心を侵されなかったのはモモだけ。モモはこの世界に、時間と言う名のいのちを取り戻すために戦いに挑みます。モモは、「人の話に耳をかたむけるだけで、話をした人々に自分自身を取り戻させる」という不思議な能力を持っていたのです。

毎日、忙しい日々明け暮れていた私に『モモ』はもう一度、自分の人生にとって、大事なものをしっかりとつかみ取るきっかけをくれました。もちろん、それは、当時「モモ・グループ」と呼ばれていた仲間たちと共に『モモ』を深く学び、そこに触れさせていただけたお陰です。そして、それを形にしてくれているのが“今、ここ”に働いてくれているものの職員達です。利用者様も職員達も“今、ここ”の時間が自分らしく活きた人生になっていくことを願っています。(代表：福本 美津子)



ナーシングホームもも
令和2年10月発行

第10号 もも便り



今年は大台風が9月上旬に通過して、例年より秋になるのが早まった印象です。10月になって秋色が少しずつ深まってきており、肌寒さも感じる季節となりました。

今回のテーマは「活」です。
いきる・いきること・暮らすなどの意味を持つ「活」という文字から、どのようなイメージが沸きますか？「本来の力を発揮する」「いかす」「いきおいが良い」「いきいきとした」など、前向きな印象が多いのではないのでしょうか。今回のもも便りでは、事業所ごとの様々な「活」をご紹介します。

TOPICS

10月は別名「神無月」と呼ばれます。日本中の神様が島根県の出雲大社に向くため、神様が不在の月＝神無月と言われていたそうです。逆に、神様が集まる島根県出雲地方においては、10月は神在月/神有月(かみありづき)と呼ばれ、新暦10月から新暦11月まで様々な祭事が行われています。

「全国の神様が出雲地方に集まるなら、神無月の間は近くの神社に参拝しても意味がないのか？」と思われるかもしれませんが、神様の留守を守る「留守神様」がいらっしゃるので参拝しても問題はないそうです。コロナの終息を願って神頼みしたいものです。



TOPICS



疫病退散
無病息災
アマビエ

串柿のいわれ

鏡餅の橙と一緒に飾る『串柿』。その名の通り、串に刺さった干し柿を指さしています。1本の串に2・6・2の合計10個刺さったものには、『いつもニコニコ(2個2個)仲むつ(6個)まじく』、1・3・1の合計5個のものには、『一人一人(1個1個)が皆(3個)幸せに』との願いが込められています。もも桑名をご利用のFさんは、干し柿作り名人です。今年も楽しんで干し柿を作られます。



お知らせ

ももふれあい保健室

もも桑名では、『ももふれあい保健室』を開いています。ご自分の体の事、介護の事、子育ての事、何でもご相談いただけます。お気軽に、お立ち寄りください。

時間：毎週木曜日 午後13時半～15時
場所：もも桑名
お電話お待ちしております。
TEL 0594-33-0302



編集後記

今回で10回目を迎えたもも便り。今回のテーマ「活」いかがでしたか？さまざまな「活」がありましたね。私たち職員も、ナーシングホームももの名前の由来から、今一度振り返って考えることができました。毎号、はりきって作っています。次号もお楽しみに！



四日市

生活を支えるとは？

令和2年4月1日に看護小規模多機能型居宅介護(看多機)の新規事業をオープンして半年が経とうとしています。今回は、一度は入院されたものの、生活スタイルを見直すことで、馴染みの生活を続けることができた利用様を紹介させていただきます。

Aさん(80歳代・女性)の今までの生活

Aさんは夫と2人3脚で生活されており、夫婦ともに要介護者です。そのため、長年、当施設のケアを利用されていて、お二人にとって、【もも四日市】は馴染みの場所になっています。Aさんは、普段から杖なし歩行で、近所の百歳体操への参加、野菜作りなど活動的でした。また、自宅では夫の介護もされていました。病気の自己管理が難しかったために“訪問看護”を利用されていました。

生活の変化

ある時、Aさんに急激な体調変化がおこり、健康状態が不安定になりました。歩行もふらつきが多く、歩行器が必要になるほどでした。もちろん、夫の介護もできない状態になり、看多機の“泊り”を利用されることになりました。

看多機利用～骨折・入院～そして退院・看多機へ

Aさんが泊りの際は、随時スタッフが隣で付き添い、転倒に注意していました。お泊りして数日後の早朝、いつものように歩行しようとして転倒されました。痛みがあったため、病院に救急搬送し、「右足の骨折」と診断され手術入院となりました。退院後は、家族からの希望もあり、毎日「通い」の夫の待つ看多機へ戻るようになりました。慣れた環境、馴染みのスタッフでのリハビリを継続することが最善と考えられてのことです。

退院1か月前に・・・退院調節カンファレンス参加

退院後、看多機へ・・・今後の課題は？

本人の希望：
歩きたい！
踵(かかと)に床ずれ

足関節硬い・踵の痛みで体重がうまく乗らない。

以前のように、歩き回る生活ができなくなってしまふ可能性が高い。

スタッフによる訓練の継続(立ち上がりや足を振り出す訓練)

立位から歩行へつなげる。足に体重が乗るようになると移乗がしやすくなり、介護負担の軽減につながる。

看多機の泊り・通い・訪問利用で、回復に合わせた新しい生活を提案をする。



文責：伊藤(孔)



【発行】 有限会社だいち
ナーシングホームもも
【編集】 もも便り発行委員会
【発行月】 2020年10月(年3回)

★職員募集中★
私たちと一緒に働きませんか?!
詳細はホームページをご覧ください



ナーシングホームもも 検索
<http://www.momo3.net>

【東員】

〒511-0254 員弁郡
東員町中上790-1
TEL 0594-75-0302

【鳥取】

〒511-0241 員弁郡
東員町鳥取917-2
TEL 0594-86-1110
TEL 0594-86-1113

【いなべ】

〒511-0428 いなべ市
北勢町阿下喜3514
TEL 0594-72-3530

【四日市】

〒512-8054 四日市市
朝明町441-1
TEL 059-336-3330

【桑名】

〒511-0901 桑名市
筒尾1-13-1
TEL 0594-33-0302

ケアマネジャーは、病気の悪化予防だけでなく、その方が望む生活(生き方)が可能になるように、介護保険のサービスのほかに、介護保険外(インフォーマル)のサービスも提案しています。今回、インフォーマルサービスを利用することで、社会とのつながりや楽しみを見つけて、生き活きと過ごされるようになった、いなべ市在住の方をご紹介します。

Aさんは脳梗塞、糖尿病、股関節痛の既往があります。脳梗塞や糖尿病があるため、自宅で寝てばかりの生活は好ましくありません。股関節痛による筋力低下や関節の動きにくさには、運動療法が必要でした。本人の納得のもと、訪問リハビリやデイサービスを開始したのですが、「頭痛があって出かけられない」等々の理由によりキャンセルが増えてはサービスを断るの繰り返しで、サービス事業所を3ヵ月程で転々としている状況でした。

しかし、自分で自転車に乗って、近所の喫茶店へモーニングを食べに行くAさんの習慣は続いていると知りました。Aさんには「日時が決まった介護サービス」の利用は向かないのではないかと考え、代わりに「本人が行きたい時に行ける場所」を利用して、運動を増やすことや、外に出かけて人との交流をする機会をつくることを考えました。そこで、Aさんが利用されそうなインフォーマルサービスを探することにしました。

いなべ市には複数のインフォーマルサービスがあります。その中から、喫茶店のようにモーニングが食べられ、時間に縛られることもなく介護の専門的な視点で見守ってもらいながら過ごせる【暮らしの保健室】がAさんに合っているのではないかと思います。いま、ご本人は、「毎日の生活に張りが出て、気持ちの落ち込みも少なくなった」と喜んで【暮らしの保健室】に通われるようになりました。

今後も、利用者様それぞれの状況に応じて、介護保険のサービスだけでなく、インフォーマルなサービスも視野に入れ、生き活きと生活(生きること)できるケアプランを提案していきたいと思えます。

- 【いなべ市のインフォーマルサービス】 ご興味のある方はぜひご利用ください。
- いなべ暮らしの保健室
 - 四季の家
 - はつらつクラブ
 - モモ大安心ふれあい保健室
 - 青空教室
 - 生きがい活動促進事業 ひなた 等。

文責: 松葉

Kさん(80歳 男性)は若い頃から歩くのが好きで、毎日1時間以上の散歩が日課でした。会社の同僚達と、東員町の自宅から多度大社(片道約8km)まで歩いたりする程でした。しかし、ここ数年は殆ど歩かなくなり、一日中ゴロゴロして過ごすようになっていました。足腰が弱ってしまい、一時期は入浴介助を受ける程の要介護状態でした。「好きなように過ごしたい」とデイサービスの利用を中止され、体力維持の利用を提案しても応じられませんでした。そして、運動不足から、次第に糖尿病も進行していきました。



その後、Kさんのケアマネジャーから「訪問リハビリを利用して、自宅で運動の機会を作れないか?」と「もも」へ依頼がきました。初回の面談では、「間に合ってます。必要ありません!」と門前払い。運動に誘っても応じてくれません。寡黙な方なので会話も弾みません。しかし、訪問回数が重なり少し打ち解けた頃、Kさんの話を聞いてみると、散歩が好きなことが分かりました。散歩に誘ったところ、「体操も運動もしたくないが、散歩なら行く」と応じてくれました。

リハビリを開始したころは、歩行時のふらつきが心配でしたが、今は足取りもすっかりされて、日常生活での転倒リスクは以前よりも少なくなりました。また、糖尿病の血液検査結果も改善されてきました。知らない人に会うのが嫌いな方でしたが、毎回、私たちの訪問を玄関先で待ってくれるようになりました。先日は、数年ぶりに近所の友人の家に歩いて出かけ、雑談されたそうです。Kさん自身からしてみれば、機能訓練や下肢筋力の強化のために歩くのではなく、好きだから歩く。それが活力の源になっているのだと感じました。

人それぞれに好きなことがあり、それが活力の源になっていることが多いと思います。今後とも、それぞれの利用者様にとって、何が活力の源かを意識して、関わっていききたいと思います。



いつもの散歩コース

文責: 矢野

いなべデイサービスでは、各利用者様が培ってきた経験を活かせるような取り組みを行っています。

茶道



茶道経験者の職員が家から茶道具一式を持ってきて、畳のコーナーに茶室を模した一画を作り、一連の所作でお茶をたて、利用者様にふるまっています。お茶の経験がある利用者様は、飲むだけでなく、目で見て場の雰囲気を楽しみ、「懐かしいわ」と喜ばれます。また、初めて茶道に触れる利用者様も、所作を真似して一緒に手をクルクルと動かし、「ええもの見してもらった、美味しかった」と笑顔で楽しめました。

ボーリング



ボーリングが好きな利用者様とは、昔のおもちゃのボーリングゲームと一緒にしています。実際のボーリングさながらに、利用者様と職員が交互に投げ、スコアボードもキッチリとつけます。ストライクを取ると拍手をしたり、職員とタッチしたりと、喜びを分かち合っています。

俳句

俳句が好きな利用者様とは、俳句ゲームをしています。5・7・5の句をそれぞれ別の人が考え、組み合わせる事で、意外な句が出来上がり、盛り上がります。俳句をやった事が無い方も、一生懸命に句を考えて下さい。その様子をご家族に伝え、「俳句なんてやったこと無かったのに!」と驚きながらも、新たな一面に喜んでくださっています。



昔運転手をしていた利用者様には、昔の感覚を感じてもらえるように、歩行訓練の時にハンドルに見立てた丸いゴムホースを握って歩いてもらっています。すると、きちんとハンドルを持つ指になり、普段はあまり感情を表に出されないのですが、時折笑顔を見せてくれることもあります。

運転

野菜を育てていた利用者様には、花壇の花や野菜の水やりをお願いしています。皆で育てたミニトマトの収穫のタイミングを聞き、頃合いを待って一緒に収穫します。「ちょっとまだ早かったかな、でも美味しいね」と笑顔で話しながら皆で食しました。



家庭菜園

これからも利用者様の経験や知識を活かしたり、新たな楽しさを経験していただけるような取り組みを、職員全員で知恵を出し合って考え、利用者様も職員も、皆が生き活きと活動できる場を作っていきたいと思えます。

文責: 福本(良)

今年はコロナの影響で、ステイホーム、家にいる時間が長くなっていますよね? そんな中、病氣や障がいを抱えながらもステキに過ごされている利用者様をご紹介します。

95歳のFさんは、今から2年前に奥様を癌で亡くされました。亡くなる数か月前に、ご自身も脳梗塞を起こし、入院されていました。左半身に麻痺が残りましたが、一生懸命にリハビリを行い、退院され、退院後は独り暮らしをされています。

入院中は、奥様を亡くされたことを乗り越え、リハビリ病院での「とても厳しいものだった」リハビリをやり直し、生活を続けられるほどの体に回復されて退院されてきました。Fさんはよく戦時中のお話をしてくださいます。航空兵として戦闘飛行機に乗っていたとのこと。その頃からの後遺症で、今も耳鳴りが続いているようです。訪問看護では、糖尿病の服薬チェックと注射をするために、週に1回お邪魔しています。麻痺の訓練に指先を使ったリハビリを自宅ですべてしていますが、その作品がこんなにたくさん出来上がっています。いくつもの命に向き合う経験をされ、その度にそれを乗り越え、今日まで生きてこられています。



どれも、根気のいる作品ばかり。毎週、私たちが作品を楽しみに訪問させていただいています。料理もお得意で、レシピや作り方を教えて頂くこともあります。これから柿のシーズンになりますので、大好物の干し柿を1年分作られます。文責: 筒井